

## 学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 大垣北高等学校 学校運営協議会（第2回）
- 2 開催日時 令和4年10月26日（水）15：00～16：10
- 3 開催場所 大垣北高等学校会議室  
開催にあたり、本校生徒の発表を実施した。
- 4 参加者

会 長	竹内 治彦	岐阜協立大学学長
副会長	兒玉 榮一	本校同窓会長
委 員	安藤 光男	大垣国際交流協会常務理事
	伊藤三枝子	清流の国ぎふ女性防災士会会長
	種田千佳子	(株)種田石油店代表取締役社長（欠席）
	田村 弘司	中部学院大学前事務局長兼特任教授
	堤 俊彦	大垣市体育連盟会長（欠席）
	三浦 陽子	大垣市男女共同参画推進室長（欠席）
	安田 真樹	本校育友会長
	山田 治美	大垣市立赤坂中学校校長
学 校 側	鈴木 彰	校長
	橋 博	教頭
	服部久美子	教頭
	村山 寛和	事務部長
	土肥 義史	教務主任
	松野 智博	進路指導主事
	田中 卓哉	生徒指導主事

### 5 会議の概要

#### (1) 協議事項等概要説明

- ・「生徒・保護者によるアンケート（7月）」の結果
- ・生徒心得の改正

#### (2) 「生徒・保護者によるアンケート（7月）」の結果について

意見 1：ボランティアをやっていないことについて生徒自身が、よい・悪いのどちらと思っているのかわからない。踏み込んで聞いてもらおうとよい。サービスマーケティング社会のエリートとして生きていくために、人のために何かする経験はよい。強制ボランティアであってもやってみて、そこで気持ちがよいと感じられれば、背中を押されることとして使える。意義付けされてやってみてそれが楽しいと思える。生徒がリーダーになるにはボランティアが一番評価として出ていることがある。

意見 2：コロナ禍でボランティアがやりにくく機会も減っている状況ではないか。

⇒外へ出て行ってやることはできなかった。経年比較する必要がある。

意見 3：ボランティアなどの情報提供は大事である。

意見 4：外部からの依頼行事によりボランティアをやってきた。中学校でもこの項目の数値は生徒も保護者も低い。例年どおりの情報を与えることができず、ボランティアや体験学習先で得ていた情報もなくなり外へ出にくい、少しずつ回復している。

意見 5：コロナの影響でなにもできなかった世代がある。教育の視点でこの世代が、どれくらいダメージを受けているか、休校の影響はどうであったかを検証する必要がある。大学向けに進研アドが600～700校を対象に調査をしたが全国的に悪い結果が出たのではない。学力も落ちているが、体験が出来なかったという点で落ちていると予想される。教育界のこの現象も重要視されるべきである。

意見 6：進学指導については一人一人の能力に応じた指導ができてきているのか、国公立大学進学偏重になっていないか。最近、他の高校でも声高に「国公立大学へ何人入りました。」と言われる。私立大学を目指す生徒もいると思うが、国公立大学を目指す圧力がかかっているのではない。雑誌に大学合格結果が掲載される風潮に流されているのではない、国公立大学を目指さなくてもいいという自由があるのが本校の本来の姿ではないか。

⇒国公立大学進学とだけ言っているわけではない。国がSTEAM教育を推奨する昨今については、理系分野に重点が置かれる。バランスよく学ぶことで結果的に国公立大につながっていくことがある。幅広く文系も理系もやっていくよう指導しており、文系であっても数学は大切という気持ちでやっている。IT業界などをはじめ社会で求められる人材に対応する必要がある。今年度は推薦枠の条件を変更したので推薦入試についても選びやすくなった。

意見 7：本校ではあまり国公立大学偏重の指導は聞かない。全体的には理系も文系も学べば受験科目として国公立が近くなることがある。

意見 8：以前と比べると、国公立偏重はなくなってきている、トータルバランスのとれた勉強が大切で、これしかできない、これしかやらないといった考え方は本校にはそぐわない。個に応じて指導すればよい。

意見 9：海外の大学の9月受験に希望する生徒はいるか、また、昔は自分で情報を集めるしかなかったので大変苦労をしたが、学校からの情報提供はあるか。本校はそういった生徒に対しても対応できる体制であってほしい。

⇒今年度も海外の大学への進学希望の生徒はいる。情報は基本的には生徒個人で集めているが、フォローやサポートはしている。昔に比べると情報は集まりやすいし、留学を専門に扱う業者もある。

### (3) 生徒心得の改正について

意見 1：中学校も、男子女子という表記をなくした。衣替え期間についても保護者からの意見を経て自由化した。少人数ではあるが、他に流されることなく各自の判断で半そでや

長ズボンなどを好きな時期に着用している。靴下も白一色だったものを黒やグレーも認めている。靴も白一色であったものを、洗い替えや靴の色指定の意義について要望があり、生徒会や保護者に意見を求めながら改定を進めている。

意見 2：頭髪の箇所にある「男女とも」表記は不要である。

⇒その通り修正する。

意見 3：今の時代は生徒心得については、生徒と話し合ったり検討されたりするということがよい。

意見 4：標準型は男子のイメージ、ブレザー型は女子のイメージがあるが、服装 A の標準型学生服について、ブレザー型にしたいとの意見はないのか。

⇒特にない。

意見 5：改正手続きには、生徒会は生徒の意見を集約とあるが、数字での集約を考えているのか。

⇒：まだこれからのことであるので、生徒会を中心に生徒自身が考えていってほしい。

意見 6：集約は、生徒の総意をはかるという表現ではないか。

意見 7：親として思う校則は、子供たちが自分たちで決めれば、守っていくであろうし、保護者としても協力したい。

意見 8：改正時期はいつか。

⇒次年度入学してくる前に、中学 3 年生に見える形を変えたい。

意見 9：ジェンダーという言葉が流行しているが、ジェンダーという言葉でまとめてしまうとその背景が出にくい。機能性が本筋ではないか。服装に関することもコロナで大きく変わったし、普段は体操服で過ごすなど制服を着る機会が減った。

## 6 会議のまとめ

ボランティアの件や服装についても、我々の気づかない視点があるのでありがたい。引き続き御助言等よろしくお願ひしたい。